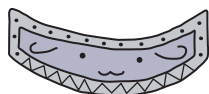


(8)二人がみた由義寺の塔

770年
(神護景雲四年)
4月

この右の文章って
なんですか？



続
日本
紀

詔して、由義寺の塔を
造りし諸司の人、及び
雑工等九十五人に、
労の輕重に随ひて、
位階を加へ賜ふ

これは、『続日本紀』にある
由義寺の塔の建設にたず
さわった人々に位を与え
たことが書かれている
ところだよ。



続日本紀のこの記述は、称徳天皇の3回目の行幸の時のもので「由義寺」に関する情報はこれだけでした。この後まもなく称徳天皇が亡くなるため、塔があったとしても大規模なものではなかったとも考えられてきました。

しかし、2016年～2017年の発掘調査で、巨大な塔の基壇が発見され、幻の塔の様子が分かってきました。

屋根を飾る瓦

出土した瓦をみると、東大寺や興福寺など奈良時代後半に国が建てた寺院の瓦が約8割を占めていることから、国が建立に関わったことがわかります。



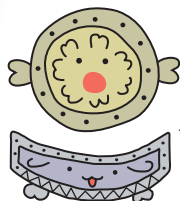
東大寺式(左)と興福寺式(右)の軒丸瓦と軒平瓦

塔の相輪

塔の頂上を飾った金具の可能性のある銅製品が見つっています。



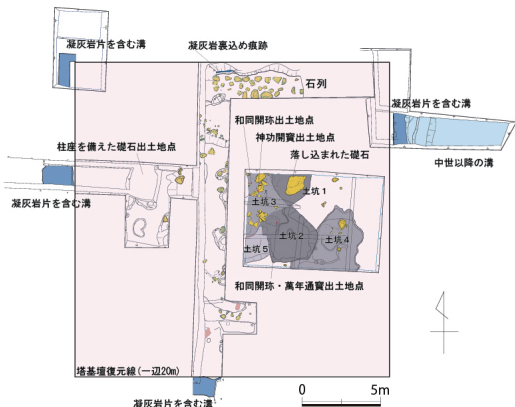
これが見つかった瓦か…
って、あああ！
ぼくたちと同じじゃん！



そう
ですね！

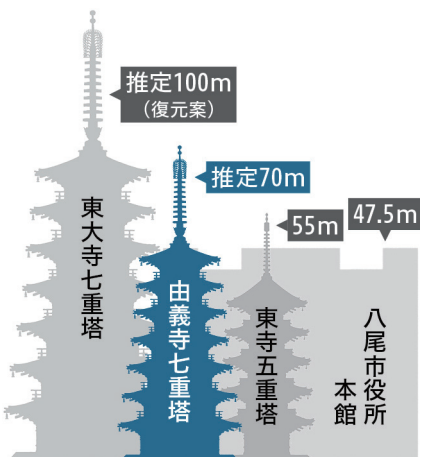
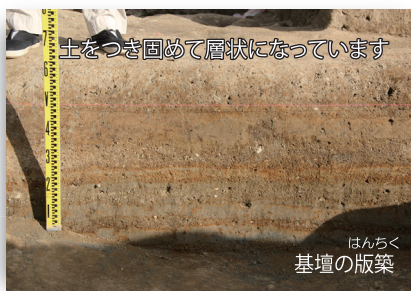
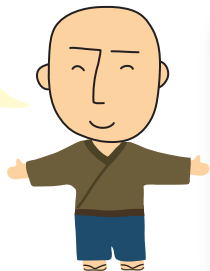
きたん 巨大な塔の基壇

「基壇」とは、塔を建てるための土台です。基壇の表面を飾っていた切石や塔の柱を支えた礎石は、後世の開発や破壊のため残っていませんでしたが、発掘調査で一辺約20mの基壇があったことがわかりました。



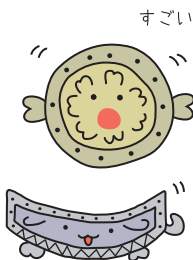
これだけの規模の基壇は、平城京にあった元興寺や西大寺の五重塔（約18m前後）より大きく、東大寺の七重塔（約24m）に及ばないものの、大安寺（約21m）に匹敵することから、由義寺の塔も七重塔であった可能性があります。

高さは、現存する木造建築では
日本一の東寺の五重塔（約55m）
を超えていたかもしれないぞ！



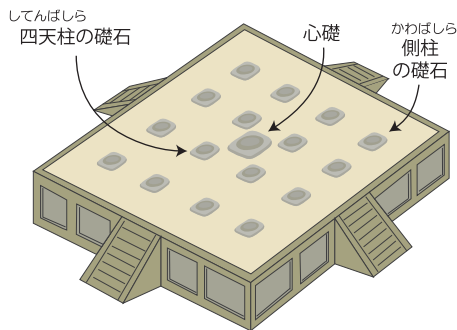
とても高い高い塔・・・。
あ～思い出した～！
確かに、ぼくたちの塔ですよ！

八尾市役所より高かった？
由義寺の塔



塔の礎石

塔の中心の柱を支えた心礎^{しんそ}の石はなく、柱の位置もわかりませんでした。ただ直径約60cmの柱を立てたと考えられる円柱座^{えんちゅうざ}をもつ礎石^{そせき}が見つかっています。



塔基壇イメージイラスト



瓦^{じちん}以外に、地鎮^{わどうかいちん}のために埋められた和同開珎^{まんねんつうほう}や萬年通寶^{じんぐうかいほう}、神功開寶^{さはり}の貨幣、佐波理^{すずなまり}（銅に錫^{すず}と鉛^{なまり}を混ぜた合金^{わん}）碗^{わん}などが出土しています。瓦や石などに火を受けたあとがみられることから、時期はわかりませんが、塔は焼けてしまったようです。

由義寺の全体像

金堂や講堂など寺院にある他の建物についてはわかりません。ただ由義寺に近い時期に建てられた大安寺や東大寺などは、東西に2つの塔が建てられています。もしかしたら、由義寺も同じようであったかもしれません。

そうや～
塔が燃えていたわ…
ほくらもその時に
落ちてしまったんや…

そうなのか～塔の最後は…
これは知らなかったよ。
じゃ、わたしは、仕事があるから
そろそろ帰るよ。



埋文センター
に行けば
友だちがいる
と思うよ。

一瞬の早着替えです～